

投稿の手引き

1. 投稿の要件

- 1) 東京矯正歯科学会雑誌（以下「本誌」という）は東京矯正歯科学会の機関誌で、年2回6月15日、12月15日に発行し、矯正歯科に関する論文や記事を掲載する。
- 2) 論文の受付は、1月15日までおよび7月15日までとする。
- 3) 投稿原稿は内容、体裁が整い、ただちに印刷できるものでなければならない。とくに論文受理後の内容の修正、変更、ならびに取り下げは許されない。
- 4) 投稿にあたっては原稿（図表を含む）のバックアップを保管する。
- 5) 症例報告の投稿においては別紙「症例報告ガイドライン」を参考にすること。

2. 投稿票, 誓約書, 資料に関する同意書はPDF形式とし, Web投稿システム (<http://www.li-product.biz/tos/author/>) より原稿とともにアップロードすること。

- 1) 論文投稿にはあらかじめWeb投稿システムへのユーザー登録が必要である。
- 2) 不測の事故でWeb投稿システムへのアップロード内容が消失する可能性があるため、投稿される前に必ずバックアップをすること。

3. 表題の体裁

- 1) 表紙には表題, 論文表題の英訳, 著者名 (ローマ字をつける), 所属 (学会で認められた名称を用い, 必要であれば指導者名を付記), 所属の英訳を明記する (記載例1)。
- 2) 共著の場合, その所属機関を区別したいときは筆頭著者と所属を異にする共著者名の右肩に*印 (asterisk) を付ける。

記載例1:

○○○○に関する臨床的研究
××による評価 (副題は行をかえる) (1行あける)

英訳のタイトル (1行あける)

鈴木一郎, 小林次郎, 山田三郎 (1行あける)

Ichirou SUZUKI, Jirou KOBAYASHI, Saburo YAMADA (姓は大文字) (1行あける)

○○大学歯学部歯科矯正学教室 (主任または指導: ◇◇教授)
……………研究所 (代表者職名, 氏名)
……………診療所 (代表者職名, 氏名) (1行あける)

英訳の所属

4. 要旨

- 1) 和文要旨（原著，他：600字以内，症例報告：200字程度），英文要旨（abstract）（原著，他：220語以内，症例報告：100語程度），キーワード（日本語・欧語）5語以内を明記する。
- 2) 英文は事前に専門家あるいは熟練者に校閲を受けた原稿を用意すること。
- 3) キーワード（Key words）は上顎前突，成長，edgewise 装置など，読者の文献検索に役立つような論文内容を表現する用語を選択されたい。

5. 本文

- 1) 原稿（表紙，和文要旨，英文 abstract，キーワード（日本語・欧語），本文，文献，図表）は，Word 形式とする。
- 2) 節，小節などの書き出しは，記載例2のようにし，その見出しの区分記号は 1. 2. 3. …，1) 2) 3) …，(1) (2) (3) …とする。

記載例2：

× 1. ○○○○○○
× 1) ○○○○○○
× ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○, ○○○○

- 3) 欧語は人名，固有名詞，略語，とくに慣用されているものは大文字で始める。また，文頭にあるときは，普通名詞であっても大文字で始めるが，文中では大文字を使用しない。
- 4) 数字は「第一，第二」，「一次，二次」などは算用数字，漢数字のどちらを用いても差し支えないが，菌種を示す場合（第一小白菌，第二大白菌など）は漢数字を用いる。
- 5) 略語，略号には国際的に慣用されているものを用いる。
- 6) 計量単位記号は次のようなものを用いること。nm， μm ，mm，cm，m， μg ，mg，g，kg， mm^2 ， cm^2 ， μl ，ml，l， $^{\circ}\text{C}$ ，sec（秒），min（分），h（時間）など（付録単位記号参照）。
- 7) 本文中に文献を引用するときは，著者の姓（名前不要）を記載し，その右肩に文献番号を付ける。著者名を明記する必要のないときは省略して番号だけでよい（記載例3）。

6. 文献

- 1) 文献は引用順に並べて通し番号を付し，本文末にまとめる。本文中の引用箇所には右肩に片かっこを付けて示すこと。

記載例3：

- 1) 山田ら¹³⁾も示すごとく…
- 2) …とされているが^{2, 4)}
- 3) 太田^{10~14)}は…と報告している（文献が3つ以上連続する場合の表し方）

- 2) 文献の書き方は以下に従うこと。

- (1) 雑誌の場合—著者名：表題名，雑誌名 巻：ページ（始めと終わり），発行年（西暦），とする。著者名は，著者が4名以下のときは全員，5名以上のときは始めの3名までとし，「他」または「et al.」と省略する。雑誌の略名は，和文のものは現物表記または日本自然科学学術雑誌総覧に，外国文のものは，Index Medicus に準拠する。

(例) 榎 恵：弄舌癖と或種の不正咬合との関係について，口病誌 12：55-60，1938.

Melsen B, Bjerregaard J and Bundgaard M：The effect of treatment with functional appliance on a pathologic growth pattern of the condyle, Am J Orthod Dentofacial Orthop 90：503-512，1986.

- (2) 単行本の場合—著者名：書名，版，発行地，発行年（西暦），発行所，引用ページ（始めと終わり）. の順とする。

(例) 中村平蔵：最新口腔外科学，2版，東京，1974，医歯薬出版，593-600.

Moyers RE：Handbook of orthodontics, 4th ed., Chicago・London, 1988, Year Book Medical Publishers, 221-246.

- (3) 分担執筆による単行本の場合は分担者名と分担表題名を先に書き編集者名（監修者名），単行本名を後に書く。

(例) 奥野善彦：唇顎口蓋裂患者の補綴処置，宮崎 正編，口蓋裂その基礎と臨床，1版，東京，1982，医歯薬出版，485-504.

Reitan K：Biomechanical principles and reactions, In：Current orthodontic concepts and techniques, 2nd ed., eds Graber TM and Swain BF, Philadelphia, 1975, WB Saunders, 111-229.

- (4) 抄録は原則として引用文献として認めない。

7. 図および表

- 1) 図（写真を含む），表はそれぞれ通し番号（図 1，図 2 …）（表 1，表 2 …）を付け，表題および説明文を付記する。

- 2) 図の表題および説明文は図の下に記す。

- 3) 図（写真含む）は可能な限り jpg 形式とする。解像度は，写真の場合 300dpi 以上，線画の場合 1,200dpi 以上とする。そのほか症例報告の投稿時には，別紙に示す「症例報告ガイドライン」のレイアウトに沿って作成した図を 1 つの PDF ファイルとし，併せてアップロードすること。

- 4) 組写真の場合，その 1 組を A4 1 ページに収めるよう心がけられたい。

- 5) 症例報告などに用いられる顔写真には「目隠し」を施し，その人物が特定できないよう配慮されたい。目隠しは「左右間：外眼角－外輪郭間の距離の 1/2 まで」「上下間：眉下から，内眼角－鼻尖間距離の 1/2 まで」とする。

- 6) 図，写真は，製版後は部分的な訂正（例えば図中の数字や文字の訂正）ができず，改めて製版し直さなければならぬので，原図製作時十分注意されたい。著者の不注意による図版再製作費はその実費を請求する。

- 7) 表は Excel 形式または Word 形式とする。

- 8) 表の表題は表の上に記し，表の内容に関する説明は表の下に記す。

- 9) 表は計量単位を明記すること。表の大きさは刷り上がり A4 1 ページ以内（横幅 17cm，縦長 22cm 以内）とし，A4 1 ページに収まらない表は受け付けない。

8. 校正

- 1) 著者校正は原則として初校において行う。校正は誤字を訂正する程度とし，原稿にない加筆や過度の訂正などは認めない。校正は朱書で行う。

- 2) 初校は原稿と初校刷を返送する。

- 3) 校正刷返送が遅れたり，校正時の大幅な原稿修正，その改版などがあって，編集業務に支障をきたし本誌発行が遅延するおそれがあるときは，たとえ受理論文として印刷中であっても，委員会の判断で掲載を次号回しとすることがある。

9. 論文掲載料

- 1) 論文掲載料（著者負担分）については，委員会の定める算定基準によって，掲載号発行後，別刷の製作発送に要した費用とともに著者宛請求するので，所定の期日までに納入されたい。

2) 著者の不注意による図版の再製作および組み替えに対しては、その実費を請求する。

10. 別刷

1) 別刷希望部数を投稿票該当欄に明記されたい。

2) 別刷の製作（別刷表紙の組版、印刷用紙代および製本代）、発送に要した費用は全額著者負担とする。